

知的資産経営報告書 2009

 **iIDZKA** 株式会社 飯塚製作所

1. 経営者からみなさまへ……………P3
2. 経営哲学……………P4
3. 経営方針……………P5
4. 事業内容……………P6
5. 過去から現在
 - ・これまでの事業展開……………P8
 - ・財務実績……………P10
6. 当社の知的資産……………P11
 - ①独自の開発技術力と開発マインド…P12
 - ②人材育成方針と組織体制……………P13
 - ③顧客対応力……………P14
 - ④社内の管理体制……………P15
 - ⑤顔の見えるネットワーク……………P16
7. 現在から未来
 - ・これからの事業展開……………P17
 - ・財務計画……………P18
8. 会社概要……………P19
9. 主要設備……………P20
10. 問い合わせ先……………P21

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在当社の
知的資産現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ
先

技術知力で未来へ芽吹く

猛スピードで進化する技術革新時代、激変する世界市場を見据え厳しいメガコンペティション世紀をいかに勝ち抜こうとされていますか。

iiDZKAでは、永年培った独自の技術とノウハウを基盤にして数々の過去の実績に拘泥することなく、常に新しい着眼と創意をこらし、未知の技術開発に挑戦し続けています。

iiDZKAが、生まれた大和の国は、古代大陸より多くの技術者が、帰化し往時の最先端文化を華開かせた由緒ある風土です。
iiDZKAの若い力は、この伝統の地で、IT世紀にさきがける技術と知能力を研鑽し合い、伸び伸びと未来へ芽吹こうとしています。

現在お悩みの開発課題や不可能と思える難題解決に iiDZKAの若い力がお応え致します。ぜひ挑戦させてください！

このたび知的資産経営報告書を通じて、当社の強み、すなわち知的資産を開示いたします。

本書を通じて、当社を取り巻く関係者の皆様の価値創造に貢献できれば幸いです。



代表取締役
飯塚 博

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ
先

世界を視野に人、自然に優しいグリーンカンパニーをめざして、不可能をも可能にする若い情熱と力が結集しています。

経営者から
みなさまへ

経営哲学

環境方針

For environment

1. 環境マネジメントシステムの継続的改善を推進し、汚染の予防に努める。
2. 関連する環境法規制、条例、協定等を遵守し、環境保全に努める。
3. 環境目的及び目標を設定し、レビューする。
4. 加工方法を見直し加工工程を短縮する。
5. スクラップの最小化を目指し材料の有効利用を図る。
6. 環境保全に関わる社会活動に積極的に参画し、地域社会との共生に努める。

経営方針

事業内容

過去から
現在

品質方針

Quality plan

品質方針

1. 新技術開発による品質の造り込み。
 2. 品質を誰にでも造り込むことができる製造技術の開発。
 3. 顧客満足の上を目指し、継続的改善を実践する。
 4. 品質方針の具体化
 5. 品質方針の実現
- これらにより製品の品質を製造工程の中で造り込み顧客に
「安心してご使用していただける製品を提供します」

当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ
先

～技術創造企業として、地域社会より歓迎される会社として発展させる～

1. 顧客の信頼に応える。
2. 新しい価値を創造する。
3. 独創性を尊重する。
4. 相互信頼の組織とする。
5. 働きがいのある会社とする。



経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

主要設備

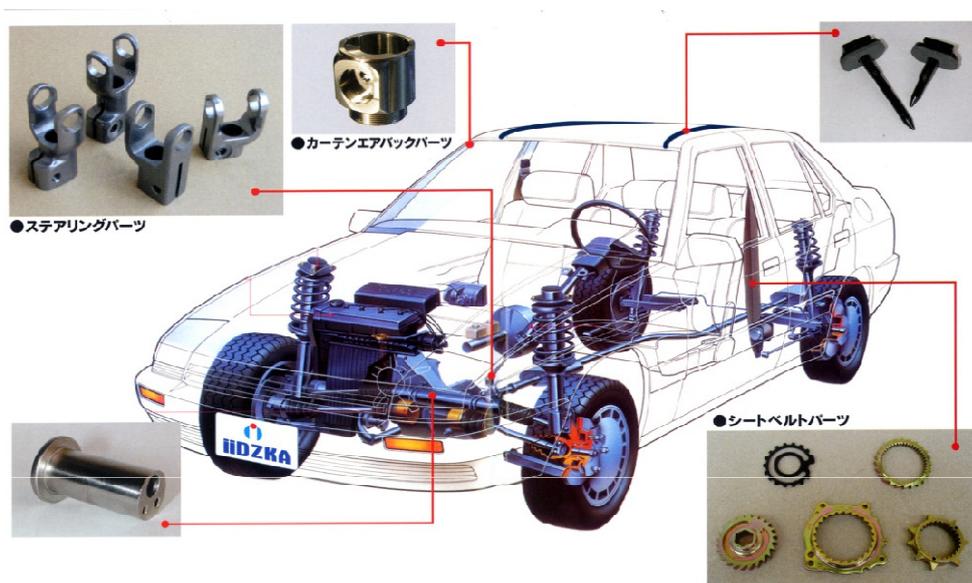
問い合わせ
先

4. 事業内容



当社の製品

- ・自動車用冷間圧造部品の開発及び製造販売
- ・その他冷間圧造・プレス部品の製造販売
- ・冷間圧造金型、プレス金型の設計製作



経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

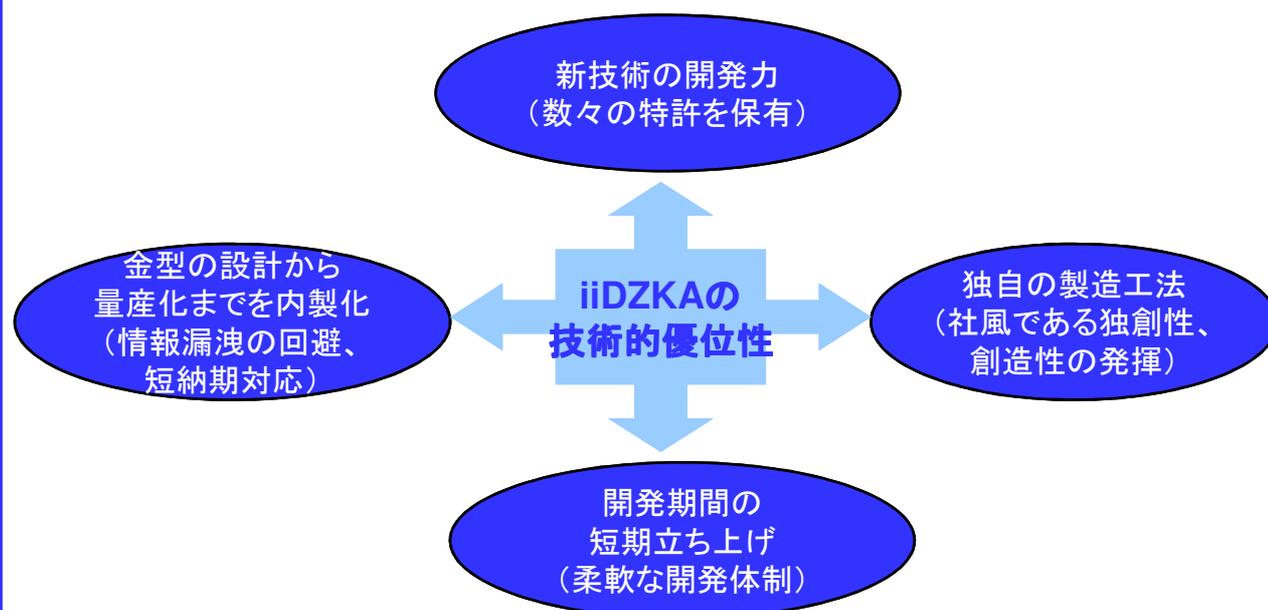
現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ

技術的優位性



開発事例紹介

金型設計製作



ステンレス製品の開発例

材質
……SUSXM7 (SUS304相当)

使用用途
……ウォシュレット部品

開発テーマ
……強度・耐蝕と低価格

開発システム
……関連メーカーとのプロジェクト体制

開発期間
……約2ヶ月



その他精密冷間圧造部品

開発事例

ポンプ用部品



工具用部品



水回り用部品



自動車部品の開発例

材質
……S35K

使用用途
……自動車のブレーキ部品

開発テーマ
……切削レス・低価格

新技術
……ホームー及びプレス金型の開発

開発期間
……約2ヶ月



顧客(取引)企業

- ・光洋機械工業(株)
- ・(株)ジェイテクト
- ・ダイセル化学工業(株)
- ・タカタ(株)
- ・中外商事(株)
- ・椿本興業(株)
- ・(株)テクノアソシエ
- ・日本精工(株)
- ・(株)富士精機
- ・富士電機モータ(株)

- ・前田金属工業(株)
- ・三浦工業(株)
- ・三浦精機(株)
- ・ミネベア(株)
- ・(株)山田製作所

(五十音順)

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ
先

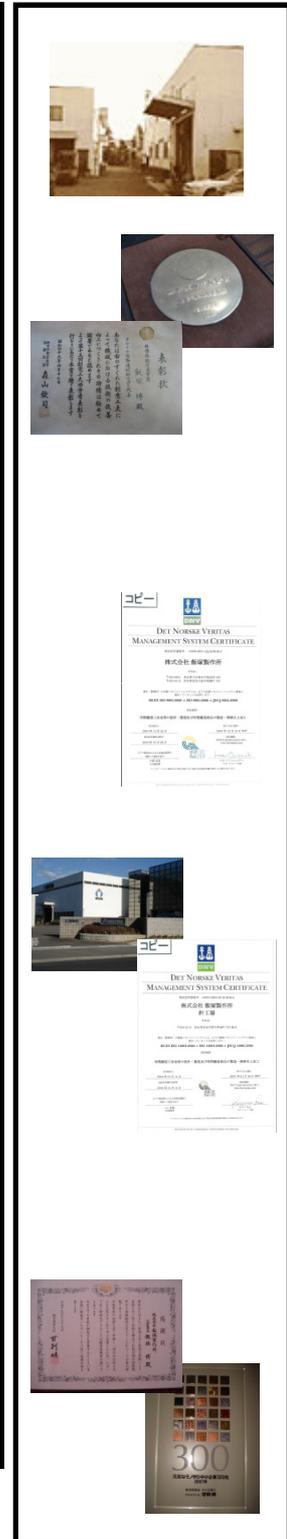
5. 過去から現在



これまでの事業展開

沿革

(1964年10月)	奈良県大和高田市根成柿487-3に於て金属プレス加工業を創業
(1969年10月)	業務拡張に伴い、同市根成柿494番地に工場移設
(1972年5月)	金属プレス金型製作設備を設置し、金型製造・販売を開始
(1974年4月)	特殊ボルトの連続自動化ラインの開発により科学技術庁 庁官賞を受賞
(1977年3月)	販売形態を輸出主流から国内主流へ転換を図る
(1981年1月)	ボルトホームーを導入し、冷間圧造部品の製造を開始
(1984年11月)	自動車用冷間圧造部品の開発・量産を開始
(1987年7月)	自動車部品の生産性強化のため、西ドイツ製5段パーツホームー及び国産製4段パーツホームーを増設。品質保証設備の強化を図るため、データ処理機能を充実
(1989年11月)	事務所移設。トータルな生産システム管理を目指し、コンピューター及び光ファイリング装置を導入。関連会社とのネットワークを強化し量産体制を充実
(1991年6月)	工場新設。異形状部品の冷間圧造及び圧造後の機械仕上加工精度の追求の為、研究・開発部門を重視
(1992年2月)	社名を株式会社飯塚製作所とし、法人組織に。資本金1,000万円
(1999年4月)	奈良県より創造法の認証を受ける
(1999年8月)	ベンチャー企業創出支援事業の認定により、中小企業投資育成会社より社債2,000万円の投資を受ける、研究用として630tプレス導入
(1999年12月)	奈良県北葛城郡新庄町に新庄工場を開設
(2000年8月)	資本金2,000万に増資(大阪中小企業投資育成会社より、500万円出資を受ける)
(2001年10月)	ISO9001<品質マネジメントシステム>認証取得
(2002年7月)	創造法認定事業の変更(1年延長)認証を奈良県より得て針工場新設を決定する
(2002年12月)	経営革新計画事業(4ヵ年)の認定を受け事業に着手(この事業テーマとして精密冷鍛技術による新商品開発を客先と協力工場のプロジェク体制で行う)
(2003年5月)	奈良県山辺郡都祁村に針工場を立ち上げる(現在の奈良市都祁馬場町)
(2004年1月)	ISO14001<環境マネジメントシステム>認証取得
(2006年2月)	針工場 第2工場完成
(2006年3月)	スイス社製 ロータリー式トランスファーマシン1号機針工場導入
(2006年10月)	スイス社製 ロータリー式トランスファーマシン2号機針工場導入
(2007年6月)	「元気なモノ作り中小企業300社」経済産業省 中小企業庁より受賞
(2007年12月)	針工場 第3工場完成
(2008年3月)	スイス社製 ロータリー式トランスファーマシン3号機針工場導入



経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ

これまでの事業展開

1) 創業期(1964年～1991年)

創業時は、日本の高度成長期にあたり、特に輸出を中心とした事業を行っていました。創業当初は、板金プレスを専門で行っていましたが、お客様の要望に応えるため、冷間圧造部品へと生産分野をシフトしていきました。創業期は、お客様の要望に応える中で、信頼を勝ち得たことが、当社にとって大きな自信となりました。

2) 第二創業期(1992年～2002年)

この時期は、法人化したこともあり、第二創業期であると位置付けています。この時期に、現在の当社を支える『ものづくりの強み』を蓄積、確立することができました。具体的には、創業期から約30年かけて培った冷間圧造技術を究極まで追求することで、『圧造の限界と見極め』を正確に行えるようになりました。

また、さらなる成長を見込み設備投資にも力を入れました。具体的には、新分野に参入すべくNC加工機を導入しました。これにより、①高付加価値品へのシフトが可能となった、②取引先の拡大に繋がった、③自動車の重要保安部品の量産化に着手できた、④冷間圧造金型の内製化が可能となった等、さまざまなメリットを享受することができました。

このような当社のものでづくりへの姿勢は、外部関係者からの評価につながり、「奈良県より創造法の認証」、「大阪中小企業投資育成会社からの出資」、「金融機関からの融資」等の支援をいただきました。これにより、研究開発への投資、針工場の新設等を行うことが可能となり、ものづくりを支えるインフラを整えることができました。

3) 成長期(2003年～2009年)

近年、社員の増員による『事業拡張体制の確立』や新設備の導入による『量産体制の構築』を行っています。iiDZKAは、創業40年を超える老舗企業ですが、常に新しい分野に挑戦する姿勢を持ち続けることで、成長したいと考えています。そのためにも、『やる気のある人材の確保』と『最新の設備の導入』が欠かせません。現在、新しい経営戦略と新しい組織体制のもと事業の拡大に取り組んでいます。iiDZKAの挑戦に終わりはありません。

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

現在から
未来

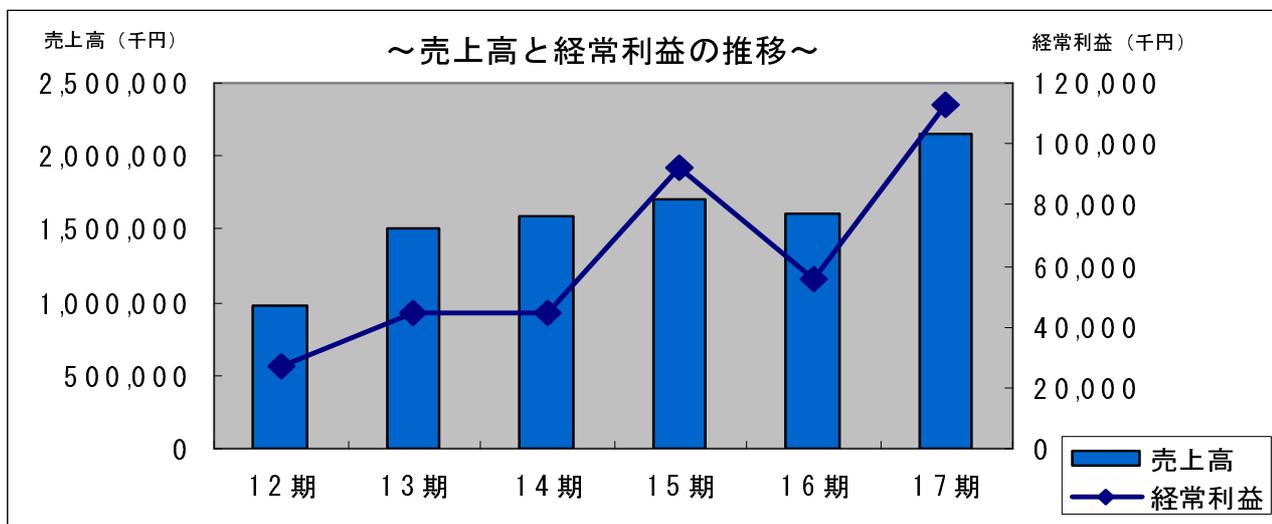
会社概要

主要設備

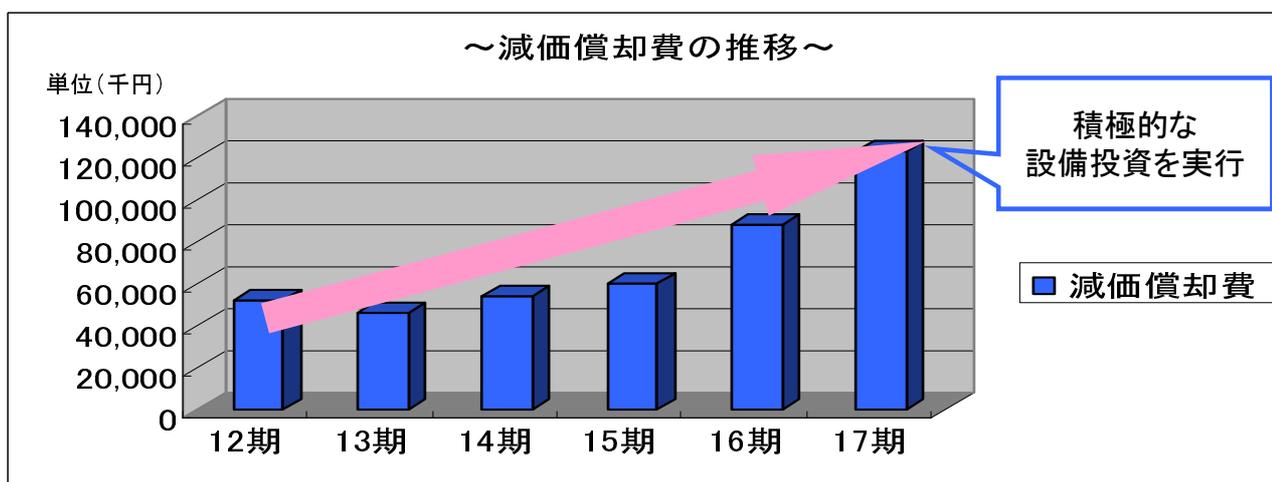
問い合わせ

5. 過去から現在

財務実績



	12期 (2002年度)	13期 (2003年度)	14期 (2004年度)	15期 (2005年度)	16期 (2006年度)	17期 (2007年度)
売上高 (千円)	971,586	1,503,784	1,581,162	1,703,878	1,610,765	2,149,945
経常利益 (千円)	27,038	44,494	44,491	92,172	55,243	112,640



	12期 (2002年度)	13期 (2003年度)	14期 (2004年度)	15期 (2005年度)	16期 (2006年度)	17期 (2007年度)
減価償却費 (千円)	52,352	46,038	54,703	60,213	88,715	124,052

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ

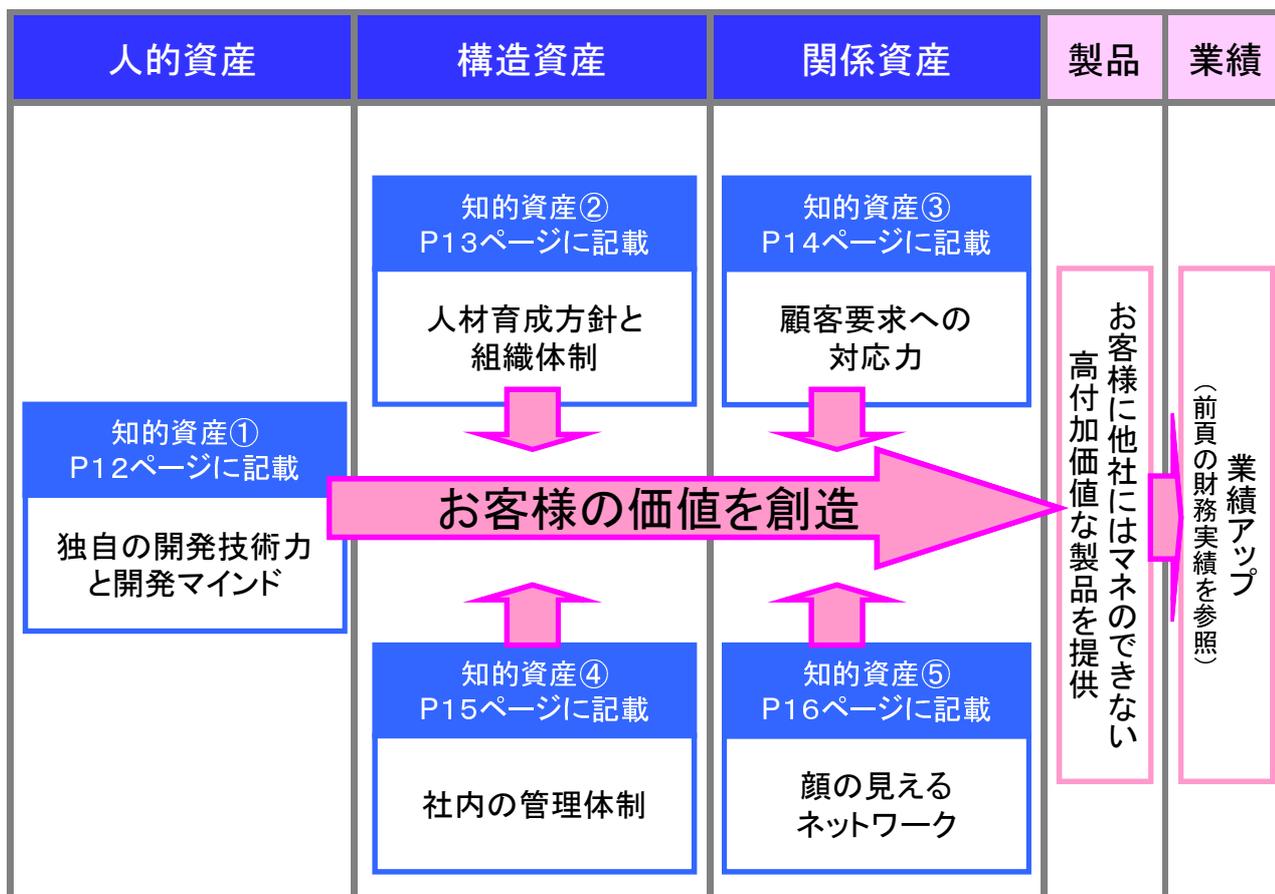
ものづくりを支える5つの知的資産

創業40年の当社が、蓄積してきた強み、すなわち知的資産は、以下の5つです。

- ①独自の開発技術力と開発マインド、②人材育成方針と組織体制、
- ③顧客対応力、④社内の管理体制、⑤顔の見えるネットワーク

これら5つの知的資産が互いに補完し、相乗効果を上げることで、お客様の価値を創造しています。具体的には、他社にはマネのできない高付加価値な製品(P6~P7参照)をお客様に提供しています。

次ページ以降では、当社の“ものづくり”を支える5つの知的資産を順を追って紹介します。



経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ

知的資産①ものづくりを支える「独自の開発技術力」と「開発マインド」

設計図に生命を注入する独自の開発技術力と開発マインド

当社は、既成概念にとらわれないフレッシュな発想を大切にする社内風土で独自の設計コンセプトに基づき、製品製法の開発、金型の設計製作を行ってきました。

当社が取り組む開発分野は、確立した分野が無い未知の世界ばかりです。これは、他社が取り組むことができない技術に果敢に挑戦することをモットーとしているからです。実際、iiDZKAがお客様から仕事を受ける時の判断基準のひとつに“他社にはできない技術であるか否か”という基準があります。この判断基準にもとづき、創造性と独創性を発揮できる分野に絞り、開発を行っています



その開発成果として、取得した工法特許は11件にのぼります。これらの特許を保有することで、メーカーとの共同開発を行う際には、自社特許を使用した開発を進めることが可能となっています。お客様からは、『他社特許に触れる心配がなく開発に取り組める』と評価をいただいています。

当社の技術力は、創業40年のものづくりの歴史がバックボーンにあります。特に冷間圧造ノウハウに関しては、自動車業界から高い評価をいただいています。しかし、当社は、これら過去の実績をバックボーンとしつつも、常にゼロベースで新たなものづくりに挑戦する気持ちで事業に取り組んでいます。そのものづくりのマインドを表現したものが、『iiDZKAスピリッツ』です。



- ・難しい案件にもNOを言わない！（まずは開発可能性を見極める）
- ・トライ＆エラーを繰り返しながら、必ず成功させる！
- ・iiDZKAにギブアップという文字はない、必ず最後までやり遂げる！

当社は、これらの言葉を開発マインドとして心に刻み、技術創造企業として挑戦しています。

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ
先

知的資産②ものづくりを支える「人材育成方針」と「組織体制」

開発力を磨くためのマニュアルはありません

当社の独自の開発力を支えるのは、『人』です。当社では、競争力のコアとなる技術者の育成に力を入れています。しかし、技術者に対し、手取り足取り技術を教えている訳ではありません。技術は、自らの創意と工夫の中で、苦勞しながら会得するものだからです。当社の開発分野は、前述のように、確立した分野がありません。このような分野では、技術者としての『感覚を磨く』しかないので

そこで、当社としての人材育成方針は、技術者が挑戦できる『場を提供すること』だと考えています。

- ・技術は実践を通して学ばせる、
- ・社員へのチャンスは平等に与える、
- ・1回の失敗はよし、しかし同じ失敗は許さない、



このような人材育成方針により技術者の育成に取り組んでいます。常に新しいものを作り上げる企業に、マニュアルはありません。若い技術者のやる気を後押し、開花できる環境を整えることが、当社がすべきことだと考えています。



さらに、これらの技術者が十分に開発に取り組めるように当社では、開発部門の専任体制を築いています。当社のような従業員規模の会社では、開発部門と製造部門の兼任体制をとっているところが多いですが、より専門性を高めるため当社では、早くから専任体制をとってきました。

会社としてすべきことは、開発部門には、創造性と独創性を発揮できる環境を与え、製造部門には、安定した品質の製品を作りこめる環境を整えることだと考えているからです。



iiDZKAは、お客様の真剣な要望に全力でこたえられるように、組織の体制にもこだわってまいります。

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在当社の
知的資産現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ
先

知的資産③ものづくりを支える「顧客要求への対応力」

QCDの追求により、顧客要求への対応力をアップ

当社の強みは、開発技術力にあることは確かですが、それを支えるのが顧客要求への対応力です。

顧客から持ち込まれる開発案件に対し、迅速な回答を行うことが開発型企業には求められます。当社が顧客から支持されているのは、この対応力が優れているからです。顧客の相談に対し、以下の3つのことを迅速回答しています。



メリット

開発コストの削減や開発期間の短縮を実現！

『技術的な見極め』は、当社の開発部門のトップである飯塚智または、代表取締役である飯塚博が直接見極めます。技術者としての経験と磨き上げた感覚により、開発可能か否かを事前に回答しています。また、『迅速な費用見積もり』や『納期回答』は、金型の設計・製作から鍛造・機械加工まで一貫した取組みが行える強みを活かし迅速に回答しています。

これら3つの回答を迅速に行うことで、お客様の開発期間の短縮化や開発に要するコストの削減に貢献しています。

さらに、ここまでのステップで、顧客要求への対応が可能と判断できれば、量産化に移ることが可能となります。当社では、充実した生産設備と第二工場(針工場)を持つことで、十分な生産キャパシティを保有しています。



万一自社内で対応が難しい場合でも、協力工場との連携により、生産キャパシティを拡大することができます。以上のようにお客様の要求に対し迅速に対応できることが、ものづくりを支える当社の隠れた強みとなっています。

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ

知的資産④ものづくりを支える「社内の管理体制」

マネジメントの仕組みと改善の実行力で勝負

当社の独自の開発力を影で支えるのが内部の管理体制です。

当社では、2001年10月にISO9001(品質マネジメントシステム)を認証取得し、2004年1月には、(株)飯塚製作所 針工場でISO14001を認証取得することで、管理体制の強化を図ってまいりました。奈良県発、世界に挑戦する企業として、内部管理体制の強化にも力を入れています。



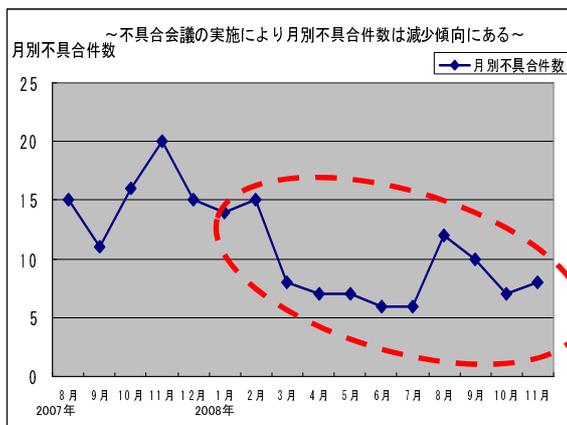
ISOは認証取得することが目的でなく、マネジメントツールを使いこなすことが重要となります。当社では、これらマネジメントツールを活用することで、Q(品質)C(コスト)D(納期)F(環境)S(安全性)の向上に努めています。

品質方針を実現するために各部門でこの方針を具体化した部門年度品質目標を設定し、その達成のために努力しています。この品質方針を実現するために朝礼・品質会議で組織全体に伝達させると共に必要に応じて品質方針の見直しも行っています。

具体的に社内で取り組んでいる改善事例として、全部門で5S活動を週一回取り組むことで、安全管理、品質管理等の向上に努めています。



また、不具合対策会議を月2回のペースで開催することで、不具合の原因を全部門で共有し、どのような対策が有効であるかという観点から検討を重ねています。



つまり、不具合が発生した原因を一つの部門の問題で終わらせることなく、全社をあげて改善すべき問題として認識し、対応するように取り組んでいます。

左図は、2007年8月以降の不具合件数の推移です。不具合対策会議を開始した2008年1月より、不具合件数が減少していることがわかります。

※不具合とは、「寸法不良」「外觀不良」「未加工」「異品混入」「ネジ不良」「加工不良」「材料不良」等を指しています。

今後も内部の管理体制の強化に取り組むことで、組織としての基盤を強化してまいります。

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ先

知的資産⑤ものづくりを支える「顔の見えるネットワーク」

社外ネットワークとの協働による成長

当社が、開発型企业として、『お客様の真剣な要求』に応えることで、急激な成長を遂げることができたのも、当社を取り巻くステークホルダーのおかげであると感じております。近年、資源の需給構造の変化が激しい状況が続いています。このような中でも材料を安定調達できる体制を築けていけるのも仕入先との良好な関係があるからです。

また、当社は、充実した生産設備と第二工場を持つ強みにより、中小企業としての生産能力は高いと自負していますが、得意先企業は一部上場の大企業が多いということもあり、当社の生産能力を超える注文が入ることもあります。このような場合に、当社を支えてくれるのが外部の協力工場です。創業40年間にわたり築いた『顔の見えるネットワーク』は、当社のかげがえの無いパートナーとなっています。



2009年1月現在、協力工場は約50社です。
当社の強みを支える知的資産です。

さらに、当社では、開発型企业として、研究開発費を一般の企業以上にかけ、新たな分野に取り組んでいます。また、機械設備への投資にも力を入れています。このような経営方針を実行できるのも、金融機関との良好な関係があるからです。必要に応じて、資金調達を問題なく行えることは当社の強みでもあります。今後、景気悪化により、資金調達が困難な状況も想定されます。当社としては、今後も事業計画の提示や定性情報の開示を行うことで、金融機関との良好な関係を築いていきたいと考えています。

最後に、地域社会との共生によるネットワークを当社では大切に考えています。当社の従業員は原則、地域の人々を採用しています。地域に支えられて当社があると思っているからです。今後もiiDZKAが生まれた大和の国、奈良で世界に通用する多くの技術者を生み出し、世界の舞台上で活躍してまいります。



経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ
先

これからの事業展開

当社では、更なるグローバル化に対応し、開発型企业として発展するために以下の4つのことに取り組みます。



- 1、蓄積ノウハウによる現地生産化
お客様の海外工場に出向き、お客様が必要とする部品を供給します。
- 2、更なる開発期間の短縮
現在開発部門では、更なるスピードアップを目標に掲げています。
当社では、金型の内製化率をアップさせることで、ノウハウを蓄積するとともに開発期間の短縮に努めています。
- 3、環境考慮の金型、工程設計
省エネで部品を作れるような取組みを今後も継続的に進めていきます。
- 4、事業の強化
今後も専門分野に特化したメーカーとのプロジェクト事業を精力的にこなすことで、新しく難易度の高い開発案件に挑戦していきます。

上記の取組みを行う上での重点項目

1. 組織体制の整備
2. 品質管理体制の整備
3. 量産効率の向上(無人化率のアップ)

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

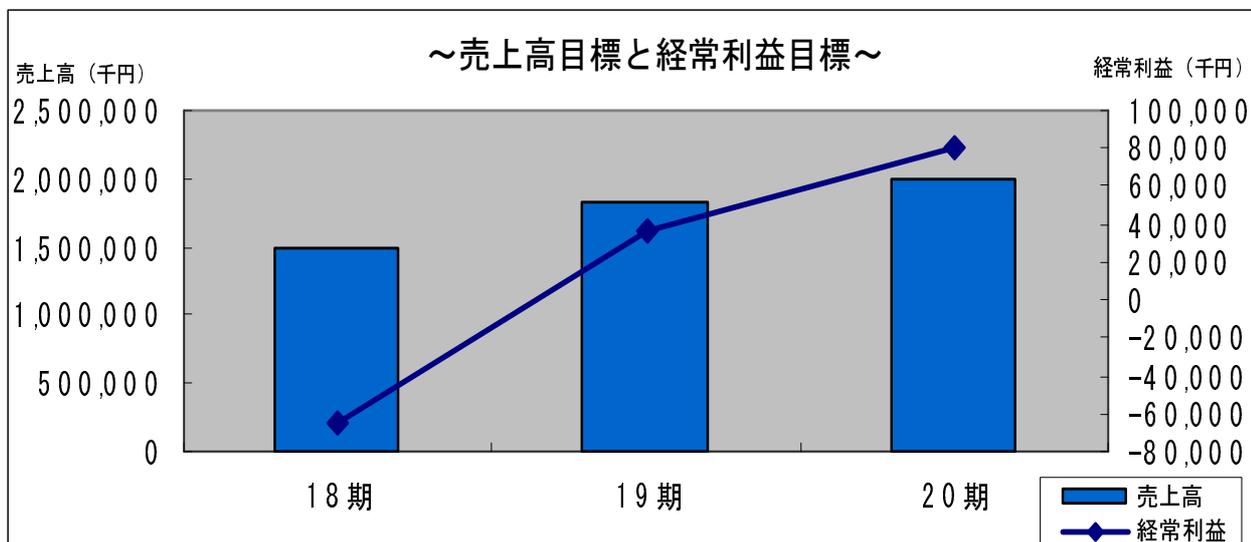
現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ
先

財務計画



	18期 (2008年度)	19期 (2009年度)	20期 (2010年度)
売上高 (千円)	1,486,000	1,827,000	2,000,000
経常利益 (千円)	▲65,000	36,000	80,000

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在当社の
知的資産現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ
先

8. 会社概要



社名	株式会社 飯塚製作所
代表者	飯塚 博
本社	奈良県大和高田市根成柿493
電話番号	0745-22-3515
ホームページ	http://www.iidzka.co.jp/
本社創業	平成4年2月(創業、昭和39年10月)
資本金	2,000万円
従業員	85名(パート社員含む)
事業内容	冷間圧造部品の開発及び製造販売
売上高	21.5億円(17期)

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

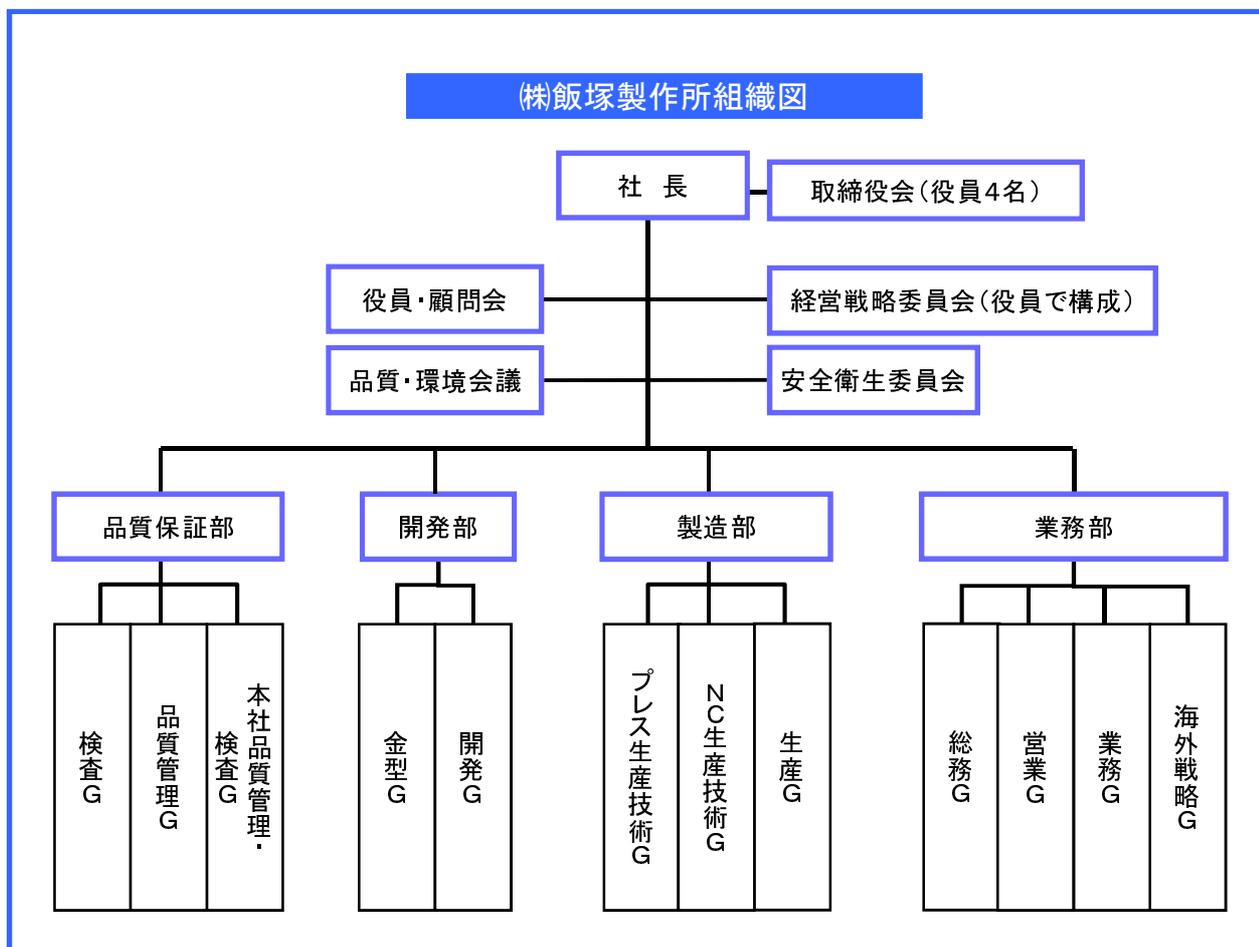
当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

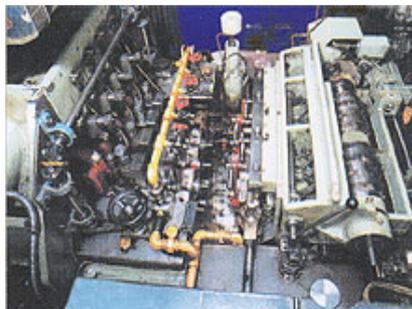
主要設備

問い合わせ
先



9. 主要設備

生産設備	多段ホームー	1台
	鍛造プレス630トン	2台
	鍛造プレス400トン	6台
	鍛造プレス250トン	4台
	鍛造プレス160トン	1台
	汎用プレス45～110トン	20台
	スイス社製 ローター式トランスファーマシン	3台
	マシニングセンター	5台
	CNC旋盤	20台
転造盤(2ダイス、3ダイス)	2台	
設計	3DCAD(CATIAV5)	
	2DCAD(AUTOCAD)	
	CAM (Master CAM)	
金型設備	マシニングセンター	
	ワイヤーカット放電加工機	
	NC放電加工機	
	万能フライス盤	
	平面研削盤	
	円筒研削盤	
検査設備	三次元測定機	
	真円度測定機	
	形状測定機	
	表面粗さ測定機	
	30トン万能試験機	
	投影機	
	工具顕微鏡	
	硬度計(マイクロピッカーズ・ロックウェル)	
	エアーマイクロメーター	
	自動専用検査機	
	歯車試験機・ギアスピーダー	
	管理設備	飯塚トータル管理システム



経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在

当社の
知的資産

現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ

知的資産経営報告書に関する問い合わせ先

株式会社 飯塚製作所 担当者 飯塚靖
 電話番号 0743-84-0888
 ファクシミリ 0743-84-0898
 メールアドレス yasushi@iidzka.co.jp

経営者から
みなさまへ

経営哲学

経営方針

事業内容

過去から
現在当社の
知的資産現在から
未来

会社概要

主要設備

問い合わせ
先

① 知的資産経営報告書とは

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産(特許・ブランドなど)、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します。

「知的資産経営報告書」とは、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー(利害関係者)に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動(価値創造戦略)として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成しております。

② 本書ご利用上の注意

本知的資産経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画並びに附帯する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて記載しております。そのため、将来に亘り当社を取り巻く経営環境(内部環境及び外部環境)の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要が生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に掲載した内容や数値などを、当社が将来に亘って保証するモノではないことを、十分にご了承ください。

③ 作成支援・監修専門家

本知的資産経営報告書の作成にあたっては、本書記載内容につき、その客観性を維持・向上させる趣旨から、次に掲げる専門家のご支援・ご監修を賜りました。

奈良県中小企業団体中央会 地域力連携拠点事業 登録専門家

中小企業診断士 青木 宏人(あおき ひろと)氏

(登録番号404689)